

第2次小樽市都市計画マスタープラン

第7回策定委員会

原案修正（新旧比較表）

第1章 現状と課題

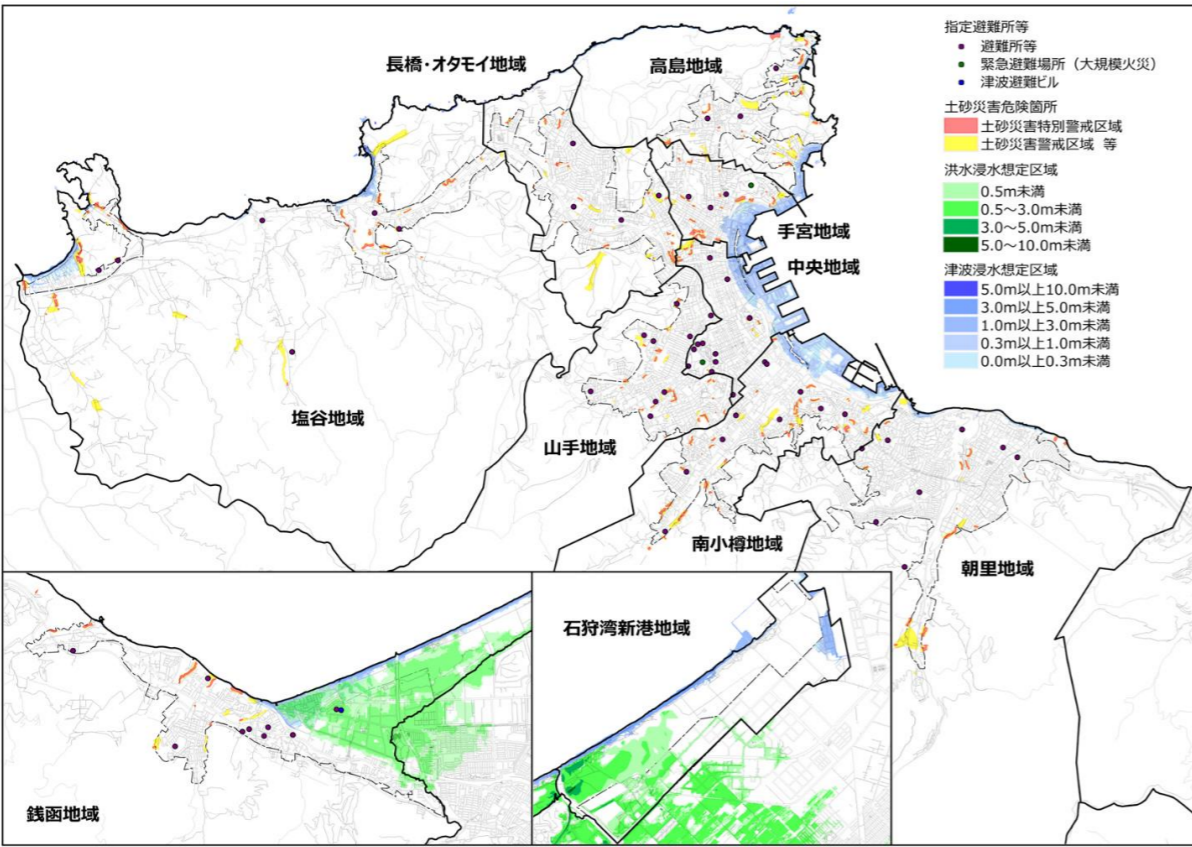
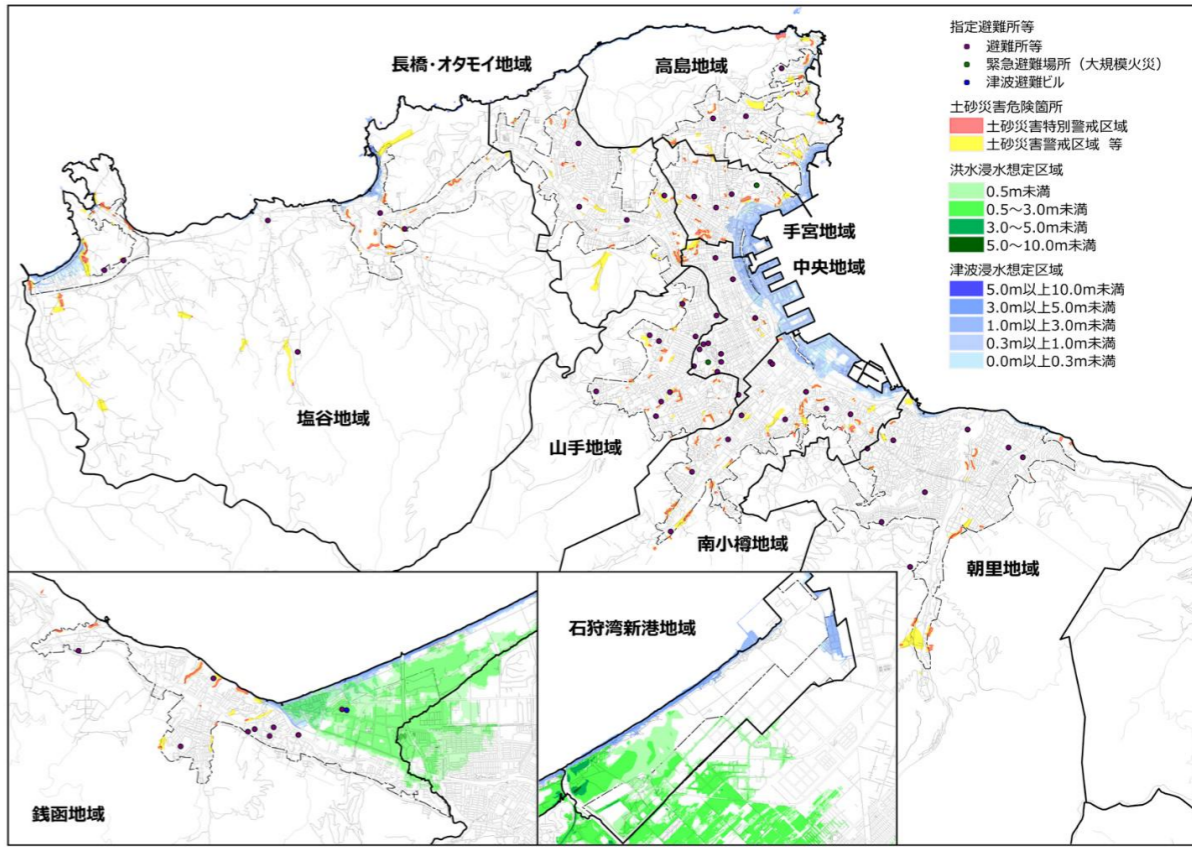
第2章 まちづくりの目標とまちの姿

第3章 部門別方針

1 まちの現状 (2) 人口と世帯

頁	新 (第7回策定委員会)	旧 (第6回策定委員会)																																																																																											
13	<p>【人口密度】 <u>市街化区域の人口密度を地域ごと</u>に見ると、中央地域が最も高く、138.6人/haとなっています。また、市全体の平均より高い地域は、山手地域 (91.2人/ha)、南小樽地域 (76.9人/ha)、手宮地域 (69.3人/ha) となっています。一方で、塩谷地域では、最も低く、22.2人/haとなっています。</p> <p>表1-1 人口密度 (平成27年)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">地域</th> <th colspan="3">市街化区域</th> </tr> <tr> <th>人口 (人)</th> <th>可住地面積 (ha)</th> <th>人口密度 (人/ha)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>塩谷</td><td>3,901</td><td>175.6</td><td>22.2</td></tr> <tr><td>長橋・オタモイ</td><td>14,095</td><td>262.0</td><td>53.8</td></tr> <tr><td>高島</td><td>7,949</td><td>140.1</td><td>56.7</td></tr> <tr><td>手宮</td><td>7,187</td><td>103.7</td><td>69.3</td></tr> <tr><td>中央</td><td>14,220</td><td>102.6</td><td>138.6</td></tr> <tr><td>山手</td><td>17,225</td><td>188.9</td><td>91.2</td></tr> <tr><td>南小樽</td><td>18,543</td><td>241.3</td><td>76.9</td></tr> <tr><td>朝里</td><td>26,410</td><td>494.2</td><td>53.4</td></tr> <tr><td>銭函</td><td>11,346</td><td>281.6</td><td>40.3</td></tr> <tr><td>合計</td><td>120,876*</td><td>1,990.0</td><td>60.7</td></tr> </tbody> </table> <p>※ <u>市街化区域内人口</u> (資料：平成27年都市計画基礎調査)</p>	地域	市街化区域			人口 (人)	可住地面積 (ha)	人口密度 (人/ha)	塩谷	3,901	175.6	22.2	長橋・オタモイ	14,095	262.0	53.8	高島	7,949	140.1	56.7	手宮	7,187	103.7	69.3	中央	14,220	102.6	138.6	山手	17,225	188.9	91.2	南小樽	18,543	241.3	76.9	朝里	26,410	494.2	53.4	銭函	11,346	281.6	40.3	合計	120,876*	1,990.0	60.7	<p>【人口密度】 <u>地域ごとに人口密度</u>を見ると、中央地域が最も高く、138.6人/haとなっています。また、市全体の平均より高い地域は、山手地域 (91.2人/ha)、南小樽地域 (76.9人/ha)、手宮地域 (69.3人/ha) となっています。一方で、塩谷地域では、最も低く、22.2人/haとなっています。</p> <p>表1-1 人口密度 (平成27年)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>人口 (人)</th> <th>可住地面積 (ha)</th> <th>人口密度 (人/ha)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>塩谷</td><td>3,901</td><td>175.6</td><td>22.2</td></tr> <tr><td>長橋・オタモイ</td><td>14,095</td><td>262.0</td><td>53.8</td></tr> <tr><td>高島</td><td>7,949</td><td>140.1</td><td>56.7</td></tr> <tr><td>手宮</td><td>7,187</td><td>103.7</td><td>69.3</td></tr> <tr><td>中央</td><td>14,220</td><td>102.6</td><td>138.6</td></tr> <tr><td>山手</td><td>17,225</td><td>188.9</td><td>91.2</td></tr> <tr><td>南小樽</td><td>18,543</td><td>241.3</td><td>76.9</td></tr> <tr><td>朝里</td><td>26,410</td><td>494.2</td><td>53.4</td></tr> <tr><td>銭函</td><td>11,346</td><td>281.6</td><td>40.3</td></tr> <tr><td>合計</td><td>120,876</td><td>1,990.0</td><td>60.7</td></tr> </tbody> </table> <p>(資料：平成27年都市計画基礎調査)</p>	地域	人口 (人)	可住地面積 (ha)	人口密度 (人/ha)	塩谷	3,901	175.6	22.2	長橋・オタモイ	14,095	262.0	53.8	高島	7,949	140.1	56.7	手宮	7,187	103.7	69.3	中央	14,220	102.6	138.6	山手	17,225	188.9	91.2	南小樽	18,543	241.3	76.9	朝里	26,410	494.2	53.4	銭函	11,346	281.6	40.3	合計	120,876	1,990.0	60.7
地域	市街化区域																																																																																												
	人口 (人)	可住地面積 (ha)	人口密度 (人/ha)																																																																																										
塩谷	3,901	175.6	22.2																																																																																										
長橋・オタモイ	14,095	262.0	53.8																																																																																										
高島	7,949	140.1	56.7																																																																																										
手宮	7,187	103.7	69.3																																																																																										
中央	14,220	102.6	138.6																																																																																										
山手	17,225	188.9	91.2																																																																																										
南小樽	18,543	241.3	76.9																																																																																										
朝里	26,410	494.2	53.4																																																																																										
銭函	11,346	281.6	40.3																																																																																										
合計	120,876*	1,990.0	60.7																																																																																										
地域	人口 (人)	可住地面積 (ha)	人口密度 (人/ha)																																																																																										
塩谷	3,901	175.6	22.2																																																																																										
長橋・オタモイ	14,095	262.0	53.8																																																																																										
高島	7,949	140.1	56.7																																																																																										
手宮	7,187	103.7	69.3																																																																																										
中央	14,220	102.6	138.6																																																																																										
山手	17,225	188.9	91.2																																																																																										
南小樽	18,543	241.3	76.9																																																																																										
朝里	26,410	494.2	53.4																																																																																										
銭函	11,346	281.6	40.3																																																																																										
合計	120,876	1,990.0	60.7																																																																																										

1 まちの現状 (7) 都市防災

頁	新 (第7回策定委員会)	旧 (第6回策定委員会)
34	<p>【自然災害危険箇所と災害対応策】 本市の行政区域は、大部分を山地や丘陵地で占められており、急傾斜地が多い特性から、地震や台風の発生による崖崩れや地滑り、河川の氾濫や津波など、多くの災害に備える必要があります。市内の急傾斜地では、土砂災害警戒区域等の指定が進められており、令和元年6月時点では、224か所が指定されています。</p> <p>また、銭函地域の星置川、新川付近では、平成29年度に洪水浸水想定区域が指定され、蘭島、忍路から銭函に至る沿岸部では、大規模地震時の津波発生による浸水を想定し、平成30年度に津波災害警戒区域が指定されています。</p> <p>大規模な災害時に備えて、規模の大きい公園を緊急避難場所に指定しているほか、住民が避難生活を送れる場所として、63か所（平成31年2月現在）の施設を避難所に指定するなどの、対策を行っています。</p> 	<p>【自然災害危険箇所と災害対応策】 本市の行政区域は、大部分を山地や丘陵地で占められており、急傾斜地が多い特性から、地震や台風の発生による崖崩れや地滑り、河川の氾濫や津波など、多くの災害に備える必要があります。市内の急傾斜地では、土砂災害警戒区域等の指定が進められており、令和元年6月時点では、224か所が指定されています。</p> <p>また、銭函地域の星置川、新川付近では、<u>洪水浸水想定区域</u>が指定されています。蘭島、忍路から銭函に至る沿岸部では、大規模地震時の津波発生による浸水を想定し、平成30年度に津波災害警戒区域が指定されています。</p> <p>大規模な災害時に備えて、規模の大きい公園を緊急避難場所に指定しているほか、住民が避難生活を送れる場所として、63か所（平成31年2月現在）の施設を避難所に指定するなどの、対策を行っています。</p> 
	図1-40 災害危険箇所（土砂災害・浸水）	図1-40 災害危険箇所（土砂災害・浸水）








3 緑の方針





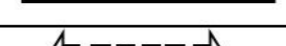
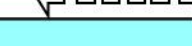
頁

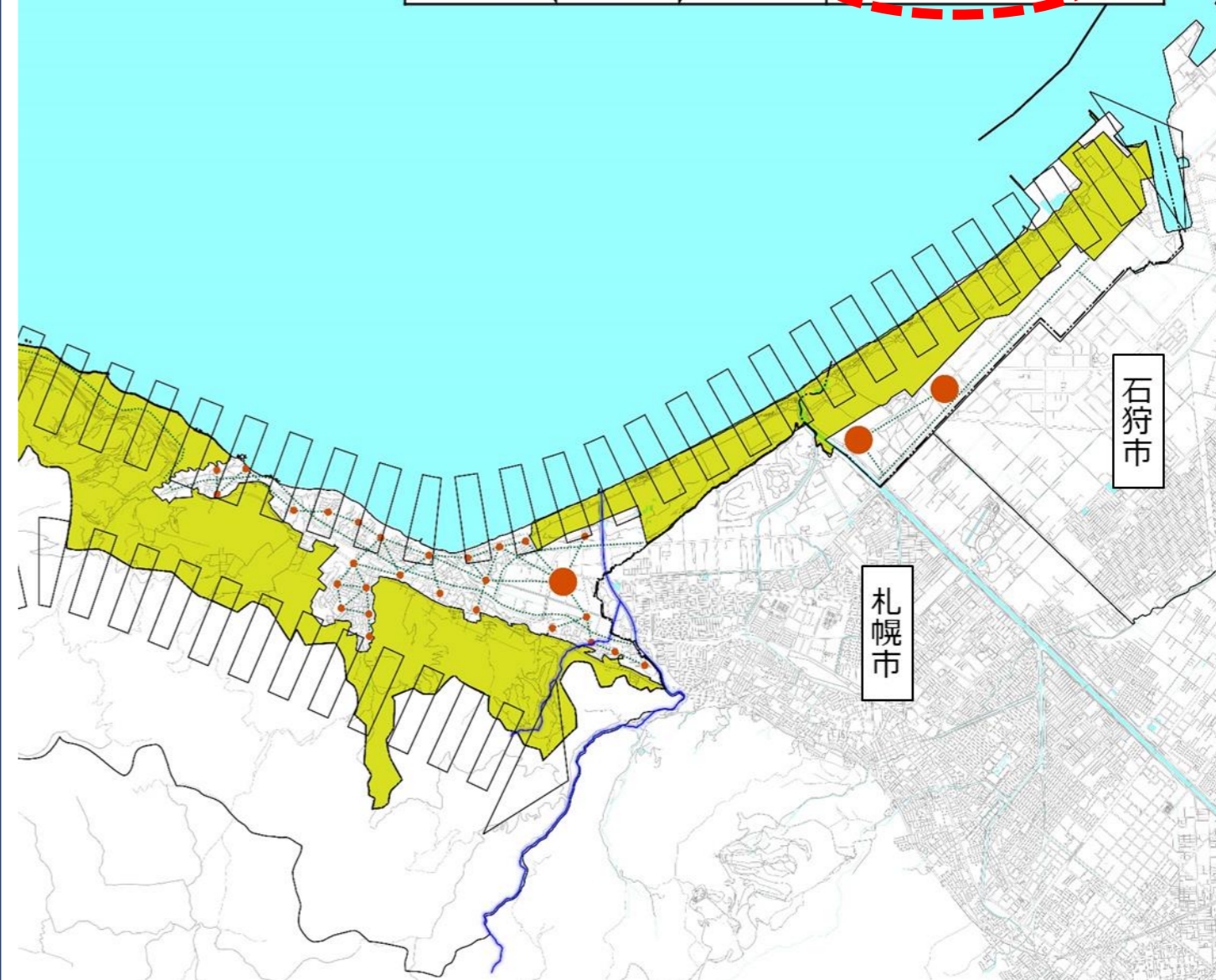
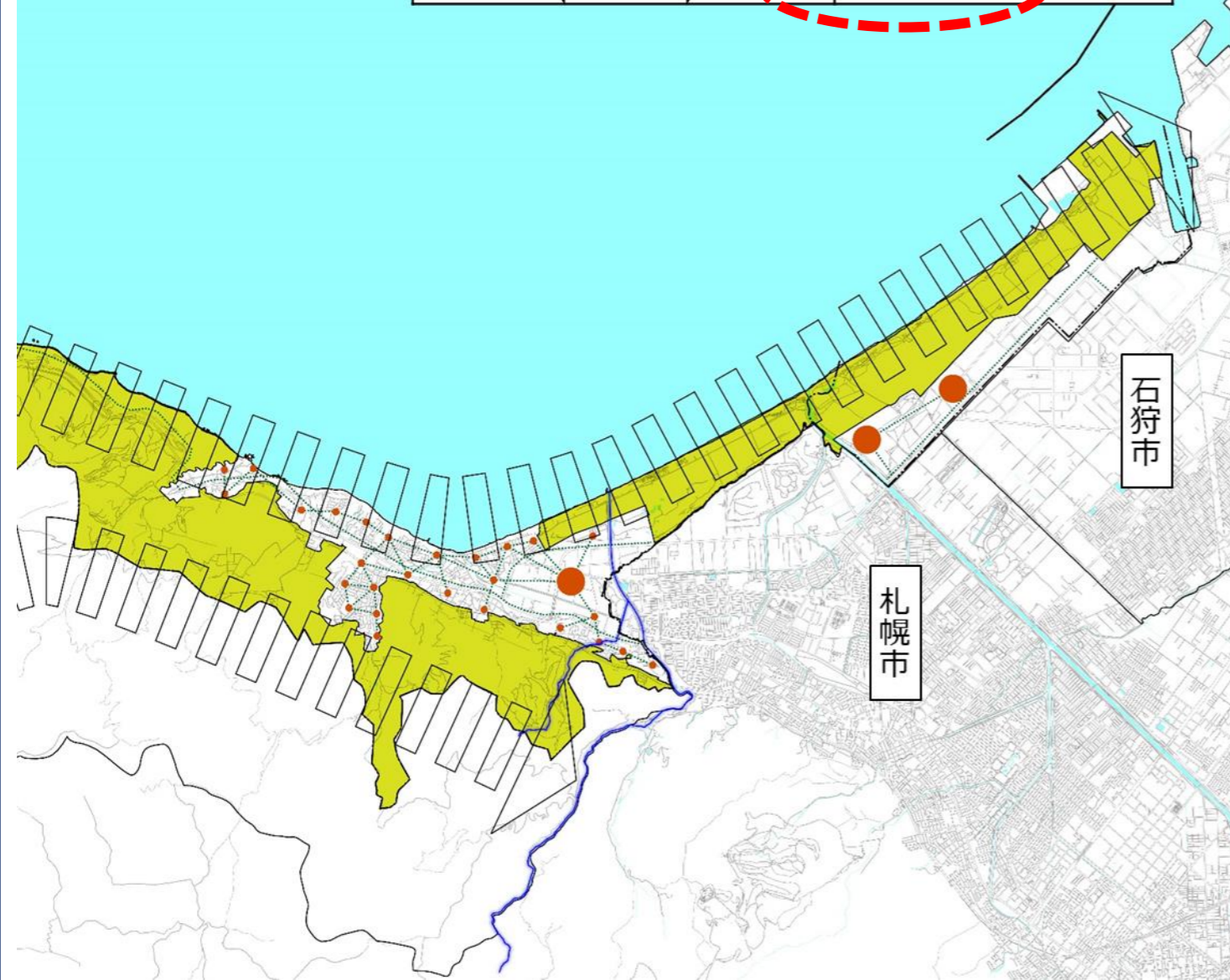
73

新（第7回策定委員会）

旧（第6回策定委員会）

凡例	
豊かな自然環境を形成している緑	
	市街地背後や海岸線の緑
公園・緑地等の緑のネットワーク	
	公園等の緑
	街路樹等の道路の緑
	河川の緑
	都市計画区域
	市街化区域
	緑の骨格軸

凡例	
豊かな自然環境を形成している緑	
	市街地背後や海岸線の緑
公園・緑地等の緑のネットワーク	
	公園等の緑
	街路樹等の道路の緑
	河川の緑
	都市計画区域
	市街化区域
	緑の骨格軸の形成方向



1 まちの現状 (6) 公共施設

頁	新 (第7回策定委員会)	旧 (第6回策定委員会)
---	--------------	--------------

33 【小樽港と石狩湾新港の将来ビジョン】
 本市は、小樽港と石狩湾新港の二つの重要港湾を有しています。小樽港には、中国を結ぶ外貿定期コンテナ航路や日本海側の内航フェリー航路が就航しています。また、石狩湾新港では、韓国や中国を結ぶ外貿定期コンテナ航路が就航しているほか、LNG火力発電施設等を有しエネルギー供給拠点としての役割も担っています。
 両港は、それぞれ将来ビジョンを策定しており、小樽港将来ビジョン（平成19年策定）では、策定から概ね20年後の港湾空間の基本ゾーニングが示され、このビジョンに沿って進められています。また、石狩湾新港長期構想（平成26年策定）では、策定から概ね20～30年後を目標年次としており、港湾利用のゾーニングが示されています。

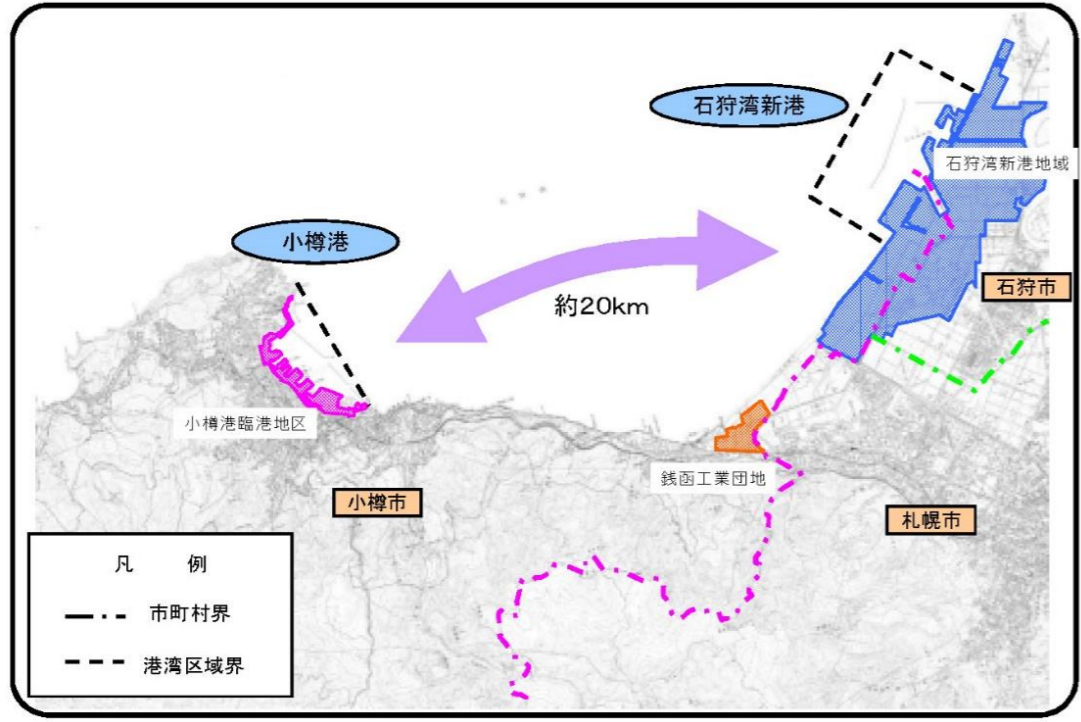


図1-39 小樽港と石狩湾新港の位置
 (出典：小樽港将来ビジョン (H19))

【小樽港と石狩湾新港の将来ビジョン】
 本市には、小樽港と石狩湾新港の二つの国際港湾を有しています。小樽港には、アジアの主要都市を結ぶ外国貿易定期コンテナ航路が就航しています。また、石狩湾新港では、北方圏諸国をはじめ、アジア、北米地域を結ぶ日本海側の拠点であるほか、LNG火力発電施設を有しエネルギーの供給拠点としての役割も担っています。
 本市では、それぞれ港について将来ビジョンを策定しています。小樽港将来ビジョン（平成19年策定）では、平成30年代後半の港湾空間の基本ゾーニングが示され、このビジョンに沿って進められており、石狩湾新港長期構想（平成26年策定）では、平成40～50年代を目標年次としており、港湾利用ゾーニングが示されています。

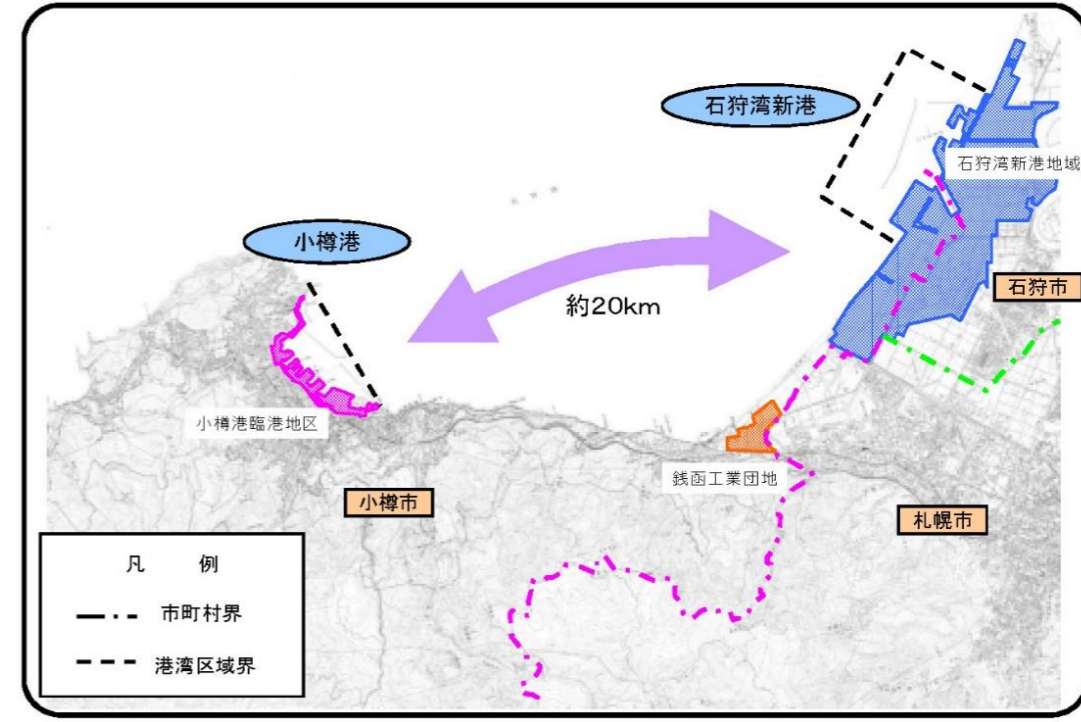


図1-39 小樽港と石狩湾新港の位置
 (出典：小樽港将来ビジョン (H19))

1 将来都市像・基本目標

頁	新（第7回策定委員会）	旧（第6回策定委員会）
48	<p data-bbox="172 247 730 296">（1）まちづくりの基本的な考え方</p> <p data-bbox="216 344 1510 485">本市には北海道開拓とともに鉄道や港を中心に発展し、明治、大正、昭和初期の繁栄の時代に築かれた歴史文化資源や変化に富んだ美しい海岸線、緑豊かな山々などの自然景観が一体となった情緒あふれる街並みがあります。</p> <p data-bbox="216 489 1516 674">この小樽を次代に継承するため、本市では平成15年に策定した1次マスタープランに基づき、利便性の高いコンパクトな市街地の形成を目指してきましたが、急速に進む人口減少や少子高齢化の中で生じる様々な課題への対応に当たっては、さらなる取組が必要となっています。</p> <p data-bbox="216 678 1525 819">小樽が「住んでみたい」、「住みよい」、「魅力的」なまちとなるよう、多彩な地域資源や都市基盤を効果的に活用して、全ての人々が快適で安心して心豊かに暮らせる、活力あふれる地域社会の実現を目指します。</p> <p data-bbox="216 823 1504 1008">そして、先人たちから受け継いだこの素晴らしいまちを、人口減少などの社会経済情勢の変化にしなやかに適応して、次の世代へ責任を持って引き継げるよう、持続可能な発展を図ります。このため、市民と支え合い、互いに誇りや郷土愛を持って協働によるまちづくりを進めます。</p> <p data-bbox="157 1060 397 1102">◆将来都市像</p> <p data-bbox="216 1155 1516 1247">本マスタープランの将来都市像は、<u>第7次小樽市総合計画と共有し</u>、まちづくりの基本的な考え方を踏まえ<u>つつ</u>、<u>都市計画の分野からその</u>実現を目指します。</p> <div data-bbox="264 1440 1368 1612" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;">『自然と人が紡ぐ笑顔あふれるまち 小樽』</div>	<p data-bbox="1561 247 2125 296">（1）まちづくりの基本的な考え方</p> <p data-bbox="1608 344 2902 485">本市には北海道開拓とともに鉄道や港を中心に発展し、明治、大正、昭和初期の繁栄の時代に築かれた歴史文化資源や変化に富んだ美しい海岸線、緑豊かな山々などの自然景観が一体となった情緒あふれる街並みがあります。</p> <p data-bbox="1608 489 2908 674">この小樽を次代に継承するため、本市では平成15年に策定した1次マスタープランに基づき、利便性の高いコンパクトな市街地の形成を目指してきましたが、急速に進む人口減少や少子高齢化の中で生じる様々な課題への対応に当たっては、さらなる取組が必要となっています。</p> <p data-bbox="1608 678 2923 819">小樽が「住んでみたい」、「住みよい」、「魅力的」なまちとなるよう、多彩な地域資源や都市基盤を効果的に活用して、全ての人々が快適で安心して心豊かに暮らせる、活力あふれる地域社会の実現を目指します。</p> <p data-bbox="1608 823 2893 1008">そして、先人たちから受け継いだこの素晴らしいまちを、人口減少などの社会経済情勢の変化にしなやかに適応して、次の世代へ責任を持って引き継げるよう、持続可能な発展を図ります。このため、市民と支え合い、互いに誇りや郷土愛を持って協働によるまちづくりを進めます。</p> <p data-bbox="1546 1060 1792 1102">◆将来都市像</p> <p data-bbox="1608 1155 2908 1247">まちづくりの基本的な考え方を踏まえ、実現を目指す本マスタープランの将来都市像は、<u>以下のように設定</u>します。</p> <div data-bbox="1715 1440 2819 1612" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;">『自然と人が紡ぐ笑顔あふれるまち 小樽』</div>